

第9章 調査研究・技術開発

SDGs



MLGs



本県では、琵琶湖などの公共用水域における水質^{【※1】}や大気汚染^{【※2】}の状況を監視するとともに、そのデータを活用した解析など、科学的な根拠に基づく施策の実施等につながる調査研究に取り組んでいます。

【※1】 第1章 P00～P00に記載 【※2】 第4章 P00～P00に記載

調査・研究の推進と成果の活用

●琵琶湖環境研究推進機構

琵琶湖の課題は、水質や生態系などの事象が影響し合って複雑化・多様化しており、各分野の連携による総合的な解決を図ることが重要です。

機構では、4つの行政部局と8つの試験研究機関を中心に関係機関が連携し、政策提言を目指して課題解決に向けた研究を進めています。

現在は「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」をテーマに、令和元年度まで行った研究の知見を踏まえ、より実証的な研究や具体的な要件や方法を検討するための調査研究を推進することが必要と考え、引き続き「沿岸環境」「流域環境」「物質循環」を柱として取組を進めるとともに、令和2年度から新たに「生産力回復技術の実証」を実施している。

また、令和3年3月には第2期（平成29年度～令和元年度）において実施した、「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」「オオバナミズキンバイ等の管理方策に関する研究」「下水処理水を用いた魚類飼育試験」の研究成果を取りまとめた第2期研究成果報告書を作成した。

●琵琶湖環境科学研究センター

琵琶湖環境科学研究センターは、琵琶湖と滋賀の環境が直面する環境問題に対して、科学的側面から課題解決を図るため、未知の現象を解明し、研究成果を総合的に解析して、政策提言などを行います。

また、社会への知見還元や、県民の環境保全活動に対する科学技術的支援により、地域への貢献を図るとともに、調査研究分野での国際貢献を視野に、国際交流にも努めています。

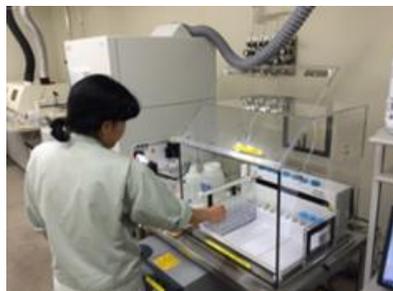
令和2年度からは、第六期中期計画に基づき、「琵琶湖をとりまく環境の保全再生と自然の恵みの活用」「環境リスク低減による安全・安心の確保」、「気候変動に適応した豊かさを実感できる持続可能な社会の構築」に向けて試験研究を推進しています。

◆「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」の全体概要



<環境政策課>

<琵琶湖環境科学研究センター>



分析機器を用いた水質測定



琵琶湖環境科学研究センター

■試験研究の推進内容

- ・ 公共用水域・生物環境・大気環境・水士環境のモニタリングを行い、環境の変化や新たな課題の発見に努めています。
- ・ 北湖の底層 DO や琵琶湖・瀬田川のプランクトン、光化学オキシダント等の大気汚染物質、化学物質の詳細把握に関する調査解析を実施しています。
- ・ 琵琶湖環境研究推進機構で取り組んでいる「在来魚介類のにぎわい復活」に向けた研究をはじめ、適切な森林の保全管理や気候変動に対応する豊かさを実感できる持続可能な社会のあり方などについて、研究を推進しています。
- ・ 琵琶湖の健全な水環境保全に向けた総合的湖沼環境評価と改善手法に関する研究を国立環境研究所琵琶湖分室と共同で実施しています。

◆WEB <https://www.lberi.jp/>

●琵琶湖博物館

<琵琶湖博物館>

琵琶湖博物館では、3つの研究領域について、総合研究、共同研究、専門研究などの研究プロジェクトを組み合わせ、研究活動を行っています。この研究活動は、博物館の活動基盤であり、その成果は博物館の展示、交流、情報発信活動に広く活かされています。また、琵琶湖地域の自然、歴史、暮らしの研究・調査を総合的に進めながら、地域人々が調査活動に参加したり、あるいは研究活動を自ら行うことができるよう応援しています。

■研究領域

●環境史研究領域

『「湖と人間」との関わりが、歴史的にどのようにできあがってきたのか』をテーマに研究調査を行っています。

●生態系研究領域

『「湖と人間」の関わりが、今どのようになっているのか』をテーマに研究調査を行っています。

●博物館学研究領域

『「湖と人間」をテーマとする博物館はどうあるべきなのか』をテーマに研究調査を行っています。

◆WEB <https://www.biwahaku.jp/>